盟中央及び各地方西舅公の諸同志に対して、宮西地方西島 斗争をいかにとらえ、业場は現在の同盟内分派斗争、党内 7月6日日に発展し、現在となお続いている同盟内分派 一宮の地方を資金の意見し 一草果

の発力

一つかを形成し、また相互の井尺主文者としての<br />
思想性の根 てきた的が同盟であるからこそ、たたかわすことの出来て と考える。この分派子争、党内斗争は決して偶然に発生し フラクションが形成ごれ党内斗争が展開されている状態だ **村** 関を維持して活动している諸同志の 
向でも主要に 
2つの 我の党建設は一歩たりとも前進しないであろう。 る。
しか
し、
ま
さ
に
は
ぜ
こ
の
よ
う
な
深
刻
は
対
立
が
発
生
し
て 深にまでされのぼって争りれるような対立をも形成してい や試長の不当逮捕に至った圣過は、諸同志の南の子信や僧 は、我々の組私的未熟さを砕々なかたちで配呈したし、の 日本階級子争の最前線に立って反帝統一战線を領ドし抜い たものではなく、歴史的、階級的に深い根拠を持っており が党派斗争へと発展する可能性を持って進人でおり、一方 のであり、この向影の解明を回避することによっては、我 いるどの好のである。確かに一方ではこの向の事態の圣憑 いるのかということこそ、我々が分析しなくてはならない 現任、わが回盟の状態は、赤軍派による分派子争の展開

なぜなら、、我々が牙秋安保決戦を目前にして向われてい

**客の樹立と中三インターの形成といった内容と同質の、国** 主又運動の南柏、あるいはレーニンによるロシア労働者国 京帝
切主
义
政
行
打
例
斗
争
の
向
治
で
あ
り
、
世
界
党
、
世
界
赤
軍 界す口独をめです世界革命氏争への発展を射程においた佐 族共产主义建新史上の位置を持った「熊躍」と「革命」へ なく、近代アロレタリアートの形成とマルクスによる対決 組紙理能・及び政治・組紅的実践の形躍であり、なか人ず ることは、ワ回大

氏以来、

同盟が獲得

くてきた全

ての

政治、 の限界を越えることによって、振躍のオニ歩を完成させば る。そして人世界党・世界赤軍の質をもって、党と軍を組 の接近であることを知らなくてはならない。すなわち、世 く、同盟そのものの革命であるからである。そこてこの 躍へのヤー歩を踏みだしていたのであり、現圧、7回大公 の建設を可能とする条件としての世界革命綱領の破定であ 「採躍」「華命」は単に日本阶級半争の枠内でのそのでは くてはならないのである。我々はいま、我々が過去受入れ

く、ようとするものである。処外その他の組取的処置をとる場合 付も、以上の事業の一環、あるいは結果とこて行われて始 らず日本の革命的左翼線体の政治的未熟さを好易に解決し 前提にして、その擁護、批判、反批判をくりかえすことに 想性がふるいにかけられているのであり、誰もが自らを絶 争情に依拠して発想することによっては何事をも解決しな 政治リアリズムに頼ることをやめなくてはならない。新と てきたマルクス・レーニン主义の教徒や諸院は及び名人の 華命を荷いつる党へと自らを鍛え上げることが出来るので 部一下部の区別はなく、すべての同盟最大真剣に党内上争 己批判と相互批判が要求されている臭において組私上の上 政治的思惑から行动することは自らの古い体質に固執する 対化することはできない。このようなとき、感情や習慣、 分派斗争の展前に参加することによって、りが同盟は現代 我は歴史が要請し、世界阶級斗争の現段階が要請している よ、ては党の革命を実現することはできないであろつ。我 めて意味を持っであろう。 に答えようとしない、そのであり、自ら及びわが問題のみな ある。いまただちに別党コースをとるものは、 **同盟の飛躍という課匙の前に謙虚でがくて付ならない。自** い。同盟を和成してきた諸四人すべての革命家としての思 い酒は古い皮袋に入れることはできない。従来の同盟の諸 以上の課

線について、水中国大学を明山土の内壁の背がのるだと 間の政治局の組

経情ドについて、<br />
②末

軍派指ド部の組

な路 わたって意見を述べたいと考える。 展団地方委員会はこのような立場に立った上で、いこの

小この向の政治局の組叙指ドについて

業の原因の一つけここにあるのである。だから外回の華郎 中委設案の分析から出発しなければならない。 及び政治局の組耘指ドを所称しようとする場合、まず、ろ 7月6日のかに至った。この前の党内斗争の馬政府性手工 立って斗かれることなく、継続る中での両権のないます、 もかかわらず、以降の党内斗争はる中を設案の終指の上に 問題の到達実と限界のメルクマールとなるとのである。に の継続審叡とにある。ろ中委認案は7回、8回大公以降の の重い経験を終拓すべく必たれたち目××日のろ中毒とそ 丹回の事態がもたらされた直接的方契杆は、

けた

向

とは

切いか

なる

幸

の

形

態

がい

か

なる

や

組

私

就

を

を

諸 ろ中垂的策は「4、28斗争が党組紀記的に同盟に突きつ 「战略記に党の型配が、 权力紀と華命形態紀を媒介に

Wear of Car.

なわち、 に押し出すことに成功しながらむ。 **俀にみいても、权力向赴を介級斗争能ニ安保斗争託の前面** 置から病囚主又权力打倒に至る草命斗争形態を確定した上 斗争の終行を「党としては、 ないという弱さを残らていた」としている。そして4、2 な終拾の方法は相対的に正といそのであり、ワ国大会以母 で中央权力斗争を華州記的に位置すけ返すことの弱さを残 の記理的諸理定を与ええだが、世界華母战争への連続的位 されずに併置して出された限界性である」と述べ、8回大 定されたものとして充分なものでなく、 週週期世界記と成 の同盟の利達実と限界の一面をつかんでいたといえる。す の華品铋的位置すげの不充分性として提起した。このよう 略、战術の基準とくて充分に確立されていない矣が見述さ とき、実は成略鉛自体が基準としての過渡期世界能から現 かにされずに併置して出された限界性」として述べられる していたのである」とし、「佐酢帝田主義政府実力打倒」 端緒的が開始という現在の情勢の推移の中で対揺せざるを 従来のレーニン帝国主又能から規定した氏略、成所に終始 は8回大会以降2中季を経て、過渡期世界記を危扶配とし れていた。すびわち、我々は8、3詫交-4中安、あるい てはあっても、労州者田家を含めた世界軍命のサミの波の ているものは実付鋭い現実感覚にもとずいた政治方針とし、 現代過渡期世界の運动法則を解明することはできず、結局 て、次に立場として展開してきたが、このことによっては しかし、「成略能に党の型於が、材力銃と華節形態銃を媒 **駐車研究争という提起の深化としてよりそ、** 匙を直然とながらと解決を革命形態能が追求に求めていっ **態茈をも覇終的に明らかにすることができず、党の手工業** 主义の党の型能が併電して出ざれた場合、叔力能と革命形 之ず、この政治方針に中央集和党―地区党というレーニン してきたのである。この場合、战略、战桁として立てられ 争形態」とされた。そして、丹秋好保決的を建続的中央村 先行住プアシズム攻撃の性格をも、た)の基本的な壁扇斗 の追及け以上からして、ろヌロック阶級斗争を統一とた世 たところに限界があった。ろ中季如果における華命形態記 住をすぬかれることができないのである。ろ中巷はこの向 府四主又政府を実力打倒とて最後の母法政府ととて葬り去 ン分析に重実が置かれ、「中央权力斗争が現代帝田主义へ る」ものとして設定し、「中央权力斗争の先端を担い、計 カンサとして心、こから川月新米阻止を十八抜き、 国的皇帝が昭を可惟して武装斗争を展開する祖私」として、 党組松论の末確立として提起した臭付正しかった。 可权力性格と中央权力斗争し 華母形態能 水深化され 一回的ペター 7佐藤

同盟中央の直轄する突撃隊の建設を、一切撃隊の切り南 母、周盟の決定的付飛躍が、政治、軍事、組叙的に向われ を、それぞれ提起し、「世界華命、战争と内战を切り南く中 列へ战略部隊をケン引するとの」として行対隊組紜の建設 とは明らかではなかったろうか。また党の組織体制の上か 棒、投石、火災ピンの軍事では突定的に不十分であること 倒しを真に実現しようとすれば、4・28斗争のごときゲバ 統的中央权力斗争の展開による佐藤帝田主義政府の実力打 るということについてふれられていないことである。 つな政治方針を実現し、党組耘を建設していこうとする場 直観にもとずいたものであった。こかし向影なのはこのよ た。これらの提起は4、28斗争の終拾として正しい政治的 央权力斗争を担う党組紙」を建設しなければならないとと らいって必正所から党中央直舞の突撃隊を建設することは 紅するということは、 まさに攻撃型所級 半・前段所車係 は明らかではなか、たろつか。さこここのような軍事を組 レーニンの党の行わなかったことであり、従来の同盟の租 定する基準として過渡期世界部が確定されわばならないこ は決定的に不十分であり、世界革命成争の战略、成婚を見 き、十一歩である以上、過渡期世界記を若杆配として、ある 華伊成争の一環ととて、日本所級半争の飛躍を勝ちとるべ 私体制の根広的変華と再細絃を実現しばしてはならないこ 盟を解体でせかねない 危険を持っていたのである。 実現するかについての展開がないとき、ろ中寺の政治方針 とは明らかではなかっただろうか。それらの概確をいかに いは立場として
花権して
きた
従来の
同題の
政治的
結業
実で 人の接近であり、渦渡期世界を攻撃的に変革していく世界 は空語に終り、政治方針と現実の党組紅とのカイ難は、同 丁連 と成

等であった。 等であった。 の組織指上のこの局面での限界に規定され、耐健屋体の 大た内型提起がなさいなか。たのも事実であり、破防法40 大た内型提起がなさいなか。たのも事実であり、破防法40 大た内型提起がなさいなか。たのも事実であり、破防法40 がはつつと、いまだ解答しきいなか、ためが、可健屋体の がはつつと、いまだ解答しきいなか、ためが、可健屋体の がであった。討能の中で放策を越 がであった。

新着ドル向内代に刃である。政治局はこの段所で、同盟の を設案の政治・軍事方針を極限化し、「前段蜂起ー臨時事 を設案の政治・軍事方針を極限化し、「前段蜂起ー臨時事 を設案の政治・軍事方針を極限化し、「前段蜂起ー臨時事 を設案の政治・軍事方針を極限化し、「前段蜂起ー臨時事

らを検証し、記争を組私化することが必要であっ うような質の向匙であるからごある。 能の実践に全回盟員がこたえることが出来るかどうか、 説を成文化して提示する頃の問題ではなく、 明して提起すべきであった。 の協力と百花斉放を求め、 ものであることを明らかにと、 共产主义草命 未端の回題買り至るまで、 ち、 ている困難 至同盟員の政治生活、党内生活の根本的変革を向 租紙的紙に至るまでの同盟の到達英と限界を解 への燃えるが如き献身性の石にみこて自 办 四所共产主义遭动史上 御領的部分から具体的な政治・ なぜならこの向題は政治的結 一同盟員とこての立場に立 党の革命のための全同盟員 政治局 から地区へ その政治的結 前人未踏の 六 7

特に軍事内匙での不決断が目立つものであった。 継続ろ中母の早急な前催へ向けての組転指ド水行的れたと 6/8)は記争の粗絃化をはかろうとするものではなく いえない。 からる中毒の終格として出された認見教事の西日通 6 ノは集会を経て、 党内部争は激化していったが、 ASP Α

後化しという現起にとどまらせたのである。 同盟の危杯に対する認該の限率は、その組織指やにお を生党的に勝ちどるだろうし の判断と全党の意志一致と、党と政治組転の全面的転換な 単なる情気の空配化や決
第一般ではなく くとては賃額 **わなくては 桌で
多中
季
設
案
から
の
基
本
的
前
進
は
な
く
、** いる限界に対して政治局は以然として無自覚であ 従来の軍事からの飛躍を堪起した失ご前進であった。 とからこの 百回通は軍団形成を緊急の任務として押し出し 乗を打ち回めるためし<br />
「ワ月上旬」へ延期するとされた。 が、ここで継続る中春け「同盟内の記争を止揚心、 6 月 せば: 「政治局は ながらと、 けこの軍事を組紅すべき党の転換の内容であり、この そくでこのテー 24日 従来の同盟の到達安を確認するどのでしかなか ならな くえないと、 書記長 断固とくに指ドカを発揮し、 その内容とくて提出されたワつの政治組転 ゼに集約されて表現された政治局の すなりちて党の武装斗争の同始は、 **包長共同執筆のず口通が配布された** かかる準備とざきない」と提起 「同盟のし ーニン党ところの 冷徹な阶級攻防 同盟の直面して 10 八月方針 ったと言 党的結 いて だが、 3

あ

の段阶の向見とくて把と返さぬばはらない」とされ 斗争から内乱、 ドの基準となり 「田家警察最力少自江隊、米軍との斗争段所を、 組紅デ 叔力韓取斗争=日米反革命軍との武装斗争 - ゼは現在に至るまで同盟政治局の指 中央权力 H いては 7 #

従来からのマルクス・レー ない日本における党ー軍ー反帝統一战線の基準も定まらず 世界党一世界赤軍 の草研を必倍人だ世界華命战争とこの統一性があいま ての世界苗崎氏争とくてしか把握できないし、 争の未来を直接世界共产主义に置いた場合には、 解は、 盟の立場を越えることができず、各回華命氏寺の統和とし 握する傾きを持っていたと考える。 界華鼠氏争を耐つむのとして、 ア独裁問題について、正べず、過渡期世界記を立場とくて把 帝統一、 氏線を考えるに至っているのであるか、 として、その違成すで継続されるべきものとして考え、世 を経るとしても、 係について設能がわかれていた崇である。 とくては世界華命氏争は、 父母性が認められながらも、 規定の批判をめ ずま 会以降2中香、 以上のようにす口通でノみ、考において政治局は単団連設 であり、 視兵を「世界壁命战争・世界共产主マ」に求めていた。 発展を度望する傾ぎがあったのに対して、このす口頭では ならない」とし、ろすロッ 好保斗争を「《世界華局の末来》 界重命氏争、 いであり、 のである。 この世界共产主义実現へのカナメをなするロレタリ | 断匙| しとくて、 コミンテルン6回大公の「世界社会主义連邦 「世界華命氏争の未来」に與こでは、 具体 その一部かとくて組私されなければなら 納領を見伝での認能が集中してきたところ そしてこの臭をあいまいにした場合に、 ぐって世界単一のマロレタリア独裁樹立の 世界単一のマロレタリア他教樹立を目 世界反帝統一战線の基準を以然として どちら外と言えば日本レ 的には日 ニン主叉の踏襲に終るのである。 現実的には各四年の多口船樹立 ク所級斗争を統一して把握する 米西帝口主又回 世界る口独一各口る口独の例 世界党-世界赤掌-世界反 からとらえ返さなければ すなりち、 阕 世界へ 明 田 労

力

者

山

家 世界華局战 打作 政治局の見 従来の同 地方香気虫 の政治学 の連続的 8回大 LO

の飛躍と革和を制織しえず、プロ風らノの号を絶対化し 政治局のるは、南ツ くの意と申請されている愛

た上で、赤曜派を反逆解体かぶとして復足したという致み 尊を、非白法下にあって、なおおいこし 命的は限度を持ってした。るけばら 中では、組織所を的見せ入った国系の海流対解体をい 等地は南口は数と本間下に、ま「水」とといい変画でした川 的孤雄によって、それを写むすることであった。なかな はいことは明らかであったな、回題は同なつの治、始紀の中は、他らを政治的、組織的に既体をはくてはなら はかったのである。土軍者の政治組織的場合には あり、世内を学を積板的に組织し、同時の改治へ組紀的 時気でもであ、三甲香港東の松頂なとしてなったならで に改治局の政治、相談指といつけてのは記と自己状判し 日白のとなり、いよいよどの定式を進行させ、なけ物選をま行させたとき、組先規律は記信力にかける形骸化 ら、実に述かにように、赤軍派の政治、約名方針はこの 軍をの即住の草の財政の可能であったかです。如今そ 極智を継続プ中でとして晴ちとることを通ぞわれ、赤 正的な沈人とにつ まっていかざっとえばいもかとはるの り他の自然的四部はごのことに要目受じます。組織的別 アルは国民の過程というなからある ル号ではまピアころ 客なしていかい

す行ったというなくではい、官僚でした説いてあい、ろ なおしのけたとして そえるとす、 軍大は親りを含くない らしのであるにもかなわらず、この時気での政治での領 と言わざるを之はい。それは、従来がマルクス・レー 以上の意味でで自過ワノつ男は形式とこては全土と ここぞ文的中央確教堂の否則日の才依拠して紀紀のできて関係には日産したことに規定すれている。すなりち、今 り仕を触るには気でいていわれていも時号でと

指導

悪循網 悪意語いにきっぱっていてのである。 だからかに、むり でター 治局の根弦的は目で欧州を客式し、今時をあげて砲だ、 とう にますれの党政斗等の医治所は、リニアに表現る のけで対象をリンテン、自憲による年息の不当の都でも 高の組紙格に体別の強いとして形成了山下。切放 二 れるかんすかからのなではお出的でもり、赤屋をあり 一人うの報いを受験しなければいるないと考える。 て日の日のみを住みでした条件はこうして一大でかい 的時内主学とて外に思応した改造官の組織的では

塘钱

镁皂

赤軍抗尊部の政治、組を既然とついて述べなくてはほうなは、派 し 一たなせもたるものであったべ上. 何望の我時でもたろすらりではありです。

2 そ、なおさらなが彼らなた軍滅として良らを形がし、既初 在的な合えはますの民間人と走っていったのなについて分析 ドついて、我には断引をしたしてきたものとして彼ら 外の言語の気頭に立って見かいにすってきたという事実 同盟の最も夢序的、生食的な部分とこて存在こてで、戦 の名誉のために承認となくてはならない。そとてだからこ くてははろない 赤軍派あいかを構成してきた諸国むか、竹回大会降 お口目のの切がに存んする主要とこて克服していかる 赤層政精尊部の改善、独名を然につい

現在のかなますの同盟をそのまう「P、Bの政組 命しる以降の武量没の主張には大きな変化な見られるのだ よっては原党成でいたなたろできとめられていると、現代基 相名語紙だついて明うなにすることにする。 ることとし、まず、アー台事件に至る赤軍が指に前の政治 全体の世界中的低限をロクトグすること人の形望に根拠を によってのっとろうとする、クーデヤー的一切内党し建設 時草命政府以上、区内万革命に対する革命の勝利的展制 持っており、すと同間の間での意思を「前内峰なし」であ 受緩が既に対する自然後は関反前とあせり人の同形、同盟 けれなら、それらて 市国を指に部か続ての歌らばすでには小こうたように 震は「東行革命」」へこいるって表境でいばかせるとに 3日在以降、武軍五結成を進めていった諸国之の政治主 少女代型定動於にある。この相称を紹行過様には同盟の 山世界革命教学人の好人を直派がに匿せることによっ - 台唇件以降のつとであり、後にはか しその他

田子以前の財団やても高会としては、この気に申して政 施程を持きにしている言ざ法に私とけずり返りでの組織自 おど、特に世間設全の組み化をおごとったところの点〉の とれ自体他の知覚的所報を意味するということである。そ 相気でくの部にである。 る相名でによってもにうすいるのではなく、いまを相ば か党中央直礁の同国形成によって非路でいるということは 水が情光のと要表として我はな網紙すべる対える音が、 してこの既望行党川田という後き日奉命戦争の民族でつく

くつる受人と覚が自己を観え上げ続ける過程さそな影解の 『空であるということなのである、厚は国としての祖公の

M

理に対して不断にるにしタリアートの階がは、 婚紅性を **於母を自然交に住として持つのであり、過じその国の敦** がることである。 世界党の 意動性とは 世界プロ棋を 事と マ目でのアウイエト運動の形成と首節節者との結合をは 据で国こて、世界革命戦争の蘇略、既祈を屈りて展前す 代表して、早かってわかはくてはならないのである。すな 界革命政争の戦略、戦術、その計画的依行によって京服 から、ではしからて はなくてはびろのいめである。そして、今が明年決戦と 白をけがることによって、後に世紀軍一のろけしなりで し、切つ、各目でのソヴェト・ゴンショーン運動とり経 こっとていり間かれる世界等の政智の報解によって逆に このことによって世界重的の全戦線に対して、所はデ 在の世界事的歌学の前親某处での武夷主等の同始であり して我はお説はしている西太子学は前日でりにというも 担成とならとろところの具体にううずけられたもので り党段階での自然受住住と否目車合いのデエ業性を、世 しに共产セイ人の意気はであいつつ、世界的は落数形成 Y 型魚の信時打倒に向けた世史筆命呼事の後一こた国語 造かてのような南部と組織を可能にさせているのである。 砂成でいてくるということである。現代過差期世界の儀 という目的意味はを与えるべき、高効と無法の伝統をも 党に規定でれた。壁、しとしてしの活局赤壁派自身あい 立場としてしの把握されず、従来からのレーニン角口主 日に分けて革命の勝利的展制の展望の上に提起されてい 뺚起しー→「臨時革命政府し」」」
「田口単命に対する革命」
「中国のに対する革命」
「中国のに対する革命」
「中国のに対する革命」
「中国のに対する革命」
「中国のに対する革命」
「中国のに対する革命」
「中国のに対する事命」
「中国のに対 ところび、にもなれわらず、赤軍丸の組織路線は、前段 ていならない。日本におけるではしなりて事物の条件は っているものとしてあるということをはってりゃくなく 之は別ったのである。このことが逆内ケーデターによっ ▽能加ら規定した「戦略・戦術の関ト の時間が展望さ は組織的観上の創造を彼ら水末してきた最高はりである。 であると用い 政府府政治行動を生ん民衆本的は急じであり、総=国験 し、射候来戦ルヨロうるという最易は組織階額心ぞの課 て同問ガハゲモニーを疑律し、屋を形成下以ば党が無難 一世早更の戦争の美国に媒介された南白主 別党コーズへのブレであるとができます →世屋も最高就学として、日本におけるプ --トの世界的は路径形成の世界の世 - 「そのいうは

でて、以上のら赤星系が同国の機能の数色を同

見 フーテマー 三中寺計集に示された政治局の政治指導の限界を主観的に **氫派によって 昼酸化して 分化で 以、 赤 熨派 の 逆内 クーテク** は越えようとしつつ、軍院は三中孝武皇を極限化した結果 にも述べたごとく、このうつら式量派の限界=無政府性は 述べることにする。 たのであった。 次にア・6事件での 武望派の行動について アノら主都自同会競を契表にして、アノら末明のよに至っ であった。すばりつ、政治局の政治・組織指導の服界は赤 一節線と政治局の組織気化との思学者は、アノススロ域ー 一路類に走った根拠は明らかにはったか、生

へ以下、次ページン

理に対して不断にたけしタリアー」の階級性、組然性を **於母を自然受生はとして持つのであり、**一般はその軍の致 白をけがることによって、後に世紀軍一のプロレタリア がることである。 世界党の 意筋性とは 世界プロ棋を 事と と国でのンケイエー運動の形成と草の管室との結合をは 据を登して、世界革命歌争の跡略、既術を定めて展開す おっていりょう 代表して、当かってわかなくてはならないのである。すな し、切つ、各目でのソヴェト・コンショーン量動とり結 こっとていり間かれる世界等前の部といってきに このことによって、世界、革命の全衛級に対して、帝ロデ 在の世界重切野争の前線を改ての武鬼工等の前始であり はなくてはいうのいのである。そして、今が年来選手 地数をなっと3ところの具体性につうずけられたもので り現段略での自然受住住と行は単命込の手工業住を、世 形成でいてくるということである。現代心境期世界の構 といつ目的意味はを与えるべき、雇助と無法の伝統をと **>型型の信時打倒に向けた世足革命所手力短しこた国語** して我はな説はしている西太子等は前日ぞり日というは 造かてのようは南部と組織を可能にさせているのである。 はしついて革命の勝利的展制の展望の上に提起されてい の勝利的民堂上 **婚起しーレー 臨時革命政府し上月世長革命に対する革命** 立陽としてしの吧握されず、従来からのヒーニン帰口主 ところは、にも及れからず、赤軍丸の組織路線は「前的 は組織階級上の動揺を彼ら灰示してきた更いはってむる て同間のハゲモニーを疑問し、壁を形成下以は党が無難 之は川ったのである。このことは逆内ケーデターによっ 逆に規定で以た、壁。しとしてしの活局赤軍派自身あり ▽説がら規定した「戦略・戦術の覚し くけららない。日本におけるではしなりて事物の条件は 政府的政治行動を生か民根本的は標品であり、戦士国際 し、射関決域ルゴリウ含という記録は組織路線とその課 ているものとしてあるということをはくさりでやなく 別でコース人のブレであるとの 世界重命戦争の変展に媒介された部白主 →世界単命戦争として、日本におけるプ 新術、その計画的後行によって京服 -トの世界的は路役形成の世界の把 ーとのなった かったされ

でて、以上以ら赤星系水同風の機能の該題を同

人以下、次パージン

組織民体に対する的位と意味する。関西地大震は近と でも切である。そろに議長に対してのリンチは同盟の しては、 共産主義者はその思想性にかけて断固として拒否すべ 係なしに、自らび教情に屈服した行為としてある以上 さらに傷害を加えるものであり、 らない。リニチは、近方力を生なった人間に対して、 す、リニチとリラ行為の確核性が指摘されなくとはな 減層の不当遇折を活ねいた馬。二の角に関しては、ま ある。

ひ以上が

写三である。

等四に

議写

だバンチレ 個句は多2プロ通によっ ラーチして並げる途中で、埋びされず、 のような傾向されたらす構造と辿っことであったので 団把していた内であり、 党内シアであるべて上のからによって記述しまって 経ず、継続3中各の開催のないままに四年されたこと たということは、すなわち分手引命と関手以上をとして ప్పే 展開しようとしたことであり について云ですることもできなかったりである。 赤軍求指車ががク2プロ面に使って自己批判を行わな 派内解放し自己の政治主張の党内ヨ帝としての展開が また限ちとれると自身するものの仕者であっ 要求されていたのである。第二にこのことはククプロ かった以上、少な全部合同国意が党内論争の組織化を 危機を道行させた点で自己批判と、分派として以示国 さのであったとしても、そのことによって正当化され し赤軍派以外の三つの境内フラクモニの居住では待で し赤甸采指道部はク化里部合同会議開催に反対の中三 た上での党内斗争の展開がなければならなかったので はしないということが第一である。 ていくことコヨの局性の番買と純化を貼ちとろつとし、 十分なものであればあるほど、原則的な種間を維持し 結論的に言之ば、赤軍楽の党内へ しかし赤軍派は二の任務を枚華し、同盟の留任的 政治局の組織指導がいかに認りの多い て気場にみぞかけていったのであった。そして 赤軍争の中でニのリニ子ご合ったものは自ら その二とによって各級は関での討論を組織化し 根源にさかのぼった自己批判が要求されるし ク18日都合同国議召集の時間でも同様であり、 て預定されていた。問題はこ 分でいるとを派り争としての 親りであった。へただ 政治目的とは一切関 的治局の指導が 置き去りにし、 路役は、 、皇帝的公 たりであ しか 個人175

> 為の里行番行者につけても、説例書出会之物 共産主芸者としての愛の引命ではあり之合け。 はならなける リ子れなかった場合、 起げのれなけ場合でも野み止すり 万二年-人の知明とむめたとい、対談し、 次に、原じる留け去りにした点、 一切の政治があからの追放と元 て自らいさぎよくすべきでか 白らも運動されるのでなくては 処分が行われなくる 乙、蒋宝宝好儿、 ニスのとつことは 一年紀分をかける المراجعة المراجعة 艺 この行 本 华

を制造局を変数して一任するべきだと表える。 のモロではないから、早急に中央各門号之間借し、 的処置の内容については、意見でごうんめんする性格 ては以上述べてきたように考えている。ただし、組織 即面地大者島県は少と軍件で切命軍派の行動に囚し

このクで配件について、ころにって加えておくなら

のとして同盟を移在的に打ち固め、鉛之上で る認識の打さについて自己批判せてるをえない。がク せなくてはないなりと考える。 はこのもつな暗い事件を二度と繰りですことのないも 件を阻し傷ながった自己の弱さ、事態の深刻さに対す の気的であるとうな事件であり、 うびてているにように我々はテロル内応酬的やが非合いるので、我々が武装当金と非合意の居代に入っていこと である。 て研名にするということの単としなくてにないだり ない」ものとして国理化されるならば、今他内門法院 リニチ及び朝後リニチを行うものは反国盟的行為とし ということではなく、無疑的に共産主義者として自認 である。そしてこれは学に政無限的に細動が解本する 法体制など勝ちとることはできないだろうということ に基項を周盟内に形成しなくとは各分ないということ は、我々は愛西当軍とリニチの問題に関して唯国とし していくということになるのである。だからかかは 20個件はあらゆる意味で、一切間の同胞の特件引動 すられたり二千及び朝後り二千ぱっせあない れ々は二のようご童 で記さ

大文 節五寸ることなる君となれたなからなったことへのなる。 本軍水行道 しての赤甲沙とのは、赤切化下がの同盟員で同盟にしていては身間との大きをうくとおすけ、今派とさきむこの間のや内望は野談と、いて自己が刊し、着ときむこの間のや内望は野談と、いてして、彼等が別が一人でとると で厚ま指導部の政治、組織路線についてはどれるが あるすることが長君をとき 21年の同盟員を同盟に登場を入りますけ、分派と が上部へいいが

41